

## うつ病は急性冠症候群の予後不良の危険因子

これまでに数々の前向き研究や系統的レビュー、メタ分析により、うつ病と心臓病による死亡率の上昇との関係が報告されているが、米国心臓協会やその他の保健機構により、うつ病が急性冠症候群（急性心筋梗塞および不安定狭心症）の予後不良の危険因子であると正式には認識されていない。本研究では、うつ病が急性冠症候群の危険因子として認められるかについて過去のエビデンスをもとに再考した。

急性冠症候群の発症後のうつ病や有害転帰についての個別論文 53 件と 4 件のメタ分析について系統的レビューを行った。個別論文のうち 32 件は全病因の死亡率との関連を、12 件は心臓病による死亡率を、22 件は複合転帰について報告したものであった。被験者の構成やうつ病の定義や測定法、追跡期間の長さなどが各研究間で不均一であったものの、うつ病や有害転帰との関連については一貫性が認められた。

したがって、米国心臓協会による、うつ病が急性冠症候群の有害転帰の危険因子として位置づけられるべきであるという推奨は、圧倒的多数のエビデンスにより指示された。

出典：Circulation. 2014; 129: published online Feb. 24, 2014. doi:10.1161